

① はまなか

議会だより

NO 113

平成27年7月25日発行



鶴の目線で学ぶカヌー体験（霧多布高校）

6月定例会

	国保税の概要	2P
予 算 議	プレミアム商品券の販売実績は	3P~5P
一 般 質 問	3人の議員が町政を問う	7P~9P
	学不可以已（小原 桃香 さん）	10P

一般会計補正予算1億9108万円を追加 予算総額 63億6156万円に

6月
定例会
10日・11日

6月定例会が10日・11日の2日間の会期で開催され、一般会計・国民健康保険特別会計補正予算と条例改正など（追加議案含む）12議案が上程され、いずれも原案どおり可決された。

また、固定資産評価審査委員会委員の選任同意、人権擁護委員の候補者の推薦はいずれも満場一致で可決。一般質問では、3人の議員が町長に所信の表明を求めた。

国保税一世帯あたり平均 3万7826円の増税

2年連続

一般会計からの繰り入れ

国保税の改正は、算定の基礎となる前年の総所得を基本に税率を調整し、国保会計の健全化を図ろうとするもの。

一世帯当りの課税総額は、平均36万4858円となり平均3万7826円の増額となる。

国保会計は、独立採算制で医療費支出に見合う分を国保税に求めるのが原則である。

しかし、極端な増税は納税意欲の

減退を招き、収納率の低下、納税者間の不均衡を招く。

このことから今年度も、3千万円（一世帯あたり2万4千円）を一般会計から繰り入れし、2年連続の激変緩和措置となった。

課税限度額85万円に

昨年に引き続きいての限度額改正で、医療分・後期高齢者分の限度額を各1万円、介護分を2万円（合計4万円）引き上げた。

平成27年度低所得者軽減の状況

区分	課税世帯	低所得軽減世帯	軽減額（千円）
医療費分	1,238 (1,268)	510 (523)	28,707 (23,130)
後期高齢者分	1,238 (1,268)	510 (523)	8,211 (7,022)
介護分	823 (875)	268 (281)	3,397 (3,186)

() 内は平成26年度

低所得者軽減を拡充

低所得者軽減は、一定の所得以下の世帯の国保税を軽減する制度。

今回の改正で軽減内容が拡充された。軽減世帯の状況は左表のとおり。

補正予算 審議から

プレミアム商品券の販売実績は

問 プレミアム商品券の販売実績および安心住まいる促進事業助成金の実績は。

答 プレミアム商品券は、4月13日から販売を行い、3209冊、1091世帯の購入があった。その内5月末現在の換金率は77%である。今後は、残冊の2791冊を10月に

販売予定。また、購入券を前もって配布する販売方法とした結果、好評であった。安心住まいる促進事業の申請は、6月3日現在、新規住宅が2件、その他修繕などが21件となっている。※内訳は表のとおり。

工事種別	申請件数	工事内容	申請金額	上限額 (1件あたり)
新築工事	2		60万円	30万円
増築工事	1	寝室増築	20万円	
修繕工事	4	外壁サイディング張り替え	53万円	20万円
	4	屋根葺き替え	52万円	
	7	外壁サイディング塗装	73万円	
	2	屋根塗装	8万円	
	1	システムキッチン入れ替え	20万円	
	2	各室内部改修	30万円	
計	23		316万円	

安心住まいる事業の申請内訳 (6月3日現在)

浜中町プレミアム商品券

使用期間
平成27年
4/13

平成27年
7/31

取扱店

浜中町商工会

学術研究助成金は



羽を休めるコクガン

問 学術研究助成金75万円

で採択された内容と審査会の構成人数は。

答 7件の申請があり、5月7日の審査会で3件を採択している。内容は、新規事業で「浜中町におけるコクガンの渡来状況調査」「浜中町における河川・湿原・海岸域の横断的な物質循環過程の解明」の2件、継続事業で1件「霧多布湿原におけるエゾシカの移動と個体数密度の把握」を採択した。

構成人数は委員7人と事務局3人である。

ウェルカム道東道・オール釧路魅力発信キャンペーンの内容は

問 このキャンペーンの内容と道東道の今後の開通予定は。

答 このキャンペーンは道東道の延伸によるPR事業と各市町村の特産品のPRを兼ねている。札幌ビアガーデンを会場に物産展を行うほか札幌モーターショーなどでキャンペーンを実施する。PR事業はメディアプロモーション、CMの作成を予定している。

また、阿寒IC（インターチェンジ）の開通は28年3月下旬。釧路西ICから

釧路東IC（外環状道路）は、27年度中の開通を予定。釧路東ICから別保の区間（深山の降り口）は工事中で、30年度に開通予定である。

なお、別保根室間の高規格道路の整備は、根室市を中心に期成会を作り最重要課題として国交省に引き続き要望していく。



完成が待たれる別保区間

学校の施設管理運営は

問 小学校の修繕料97万円の内容は。

また、管理人常駐学校は何校で、管理人のいない学校の施設管理をどのように考えているか。

答 修繕料は霧多布小学校の30年以上使用している循環ポンプの修理である。管理人のいる学校は、霧

小・霧中の2校で、業務内容は校舎内外の営繕・草刈りなどの施設管理である。

他校では、校長・教頭が行っていたため、負担が大きく改善の必要があり、今年度から年4回の草刈りを高齢者事業団に委託し軽減を図っている。今後管理人が各学校を巡回できるように、なしくみを考えたい。

福祉振興基金の積立状況と活用は

問 現在残高と基金活用事業の内容は。

また、会館の備品整備などに充てることは可能か。

答 基金の現在残高は、3757万円である。今後の事業計画として、介護職員の養成講座を予定。また、会館整備などは自治会と協議し進めている

が、福祉関連整備事業への財源充当は可能である。

※福祉振興基金とは

主に寄付金を原資として積み立てられている基金。浜中町における福祉活動の促進、快適な生活環境の形成などを図る事業に充てられる。

6次産業化への支援は

問 6次産業化ネットワーク活動

交付金は、新規の補助事業であるが、その概要と予算額159万円の

内容は、また、事業の周知は図られているか。

答 6次化を成功させるために多様な事業者が連携して取り組む新商品開発や販路開拓、農林水産物の加工・販売施設の整備などを支援



新商品開発を手掛けるチーズ工房

する交付金事業である。

今回の予算は、ヨーグルトの商品開発・市場調査・販路開拓への支援で、事業費の3分の1を補助するもの。

今後は農協・普及センターを通じて事業の利用を促したい。

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
一般コミュニティ事業助成金（浜中東南連合会：テントほか）	250万円
林業専用道調査設計委託料（円朱別旭線）	641万円
林業専用道開設工事（円朱別旭線 L=1200m）	2400万円
産業振興資金貸付金（浜中漁協分：機関換装）	684万円
公営住宅新築工事（霧多布団地 1棟4戸）	1億2585万円

繰越明許費繰越計算書の報告

- デジタルテレビ中継局整備事業 3326万円
 - 地域住民生活等緊急支援事業 5414万円
 - 霧多布海岸陸開改良事業 4273万円
- いずれも26年度内に終了できなかったことから、27年度に繰り越したことが報告された。

条例の一部改正を議決

- 町国保条例の一部改正
概要は2ページに。
- 町立へき地保育所条例の一部改正
子ども・子育て支援法の導入に伴い、新たに3階層の保育料を設定するための改正。
月額保育料の設定区分は、生活保護世帯0円、町民税非課税世帯3千円、町民税所得割課税世帯1万6千円とする。

□町墓地設置及び管理条例の一部改正
火散布共同墓地用地の不足が見込まれることから、隣接する民有地を借り受け墓地用地として管理するための改正。

□辺地総合整備計画の策定および変更を可決

西円朱別地区辺地整備計画の新規策定と円朱別地区辺地整備計画の変更は、いずれも通学バス整備事業に係る計画の策定と変更である。



固定資産評価審査委員の選任に同意

田中裕作氏は6月28日付で任期満了となることから、引き続き適任と認め、選任に同意しました。



田中裕作氏
(茶内)

人権擁護委員の推薦に同意

天間館りゆう子氏、中村裕子氏の両名は、9月30日付で任期満了となることから、引き続き適任と認め、推薦に同意しました。



中村裕子氏
(霧多布)



天間館りゆう子氏
(霧多布)

■町税条例の一部を改正
地方税法の改正による町税条例の改正。
番号法（マイナンバー制度）改正に伴う所要の措置、ふるさと納税の申告特例、軽自動車税の税率の特例（燃費性能に応じたグリーン化）の規定など。

■一般会計（26年度）
除雪対策経費など歳入・歳出の確定による剰余金を財政調整基金に積み立てる補正で6582万円を追加し、予算総額を67億3717万円に。

専決処分の報告を承認

第1回

臨時会

5月8日

議会運営委員会	
委員長 鈴木誠	副委員長 成田良雄
委員 加藤弘二	委員 中山眞一
委員 秋森新二	委員 中眞一

社会文教常任委員会	
委員長 川藤弘二	副委員長 前村義春
委員 鈴木光治	委員 成田誠
委員 堀金澄恵	委員 成田良雄

総務経済常任委員会	
委員長 中山眞一	副委員長 秋森新二
委員 菊地哲夫	委員 田浦哲朗
委員 三上浅雄	委員 田浦哲朗

議長 波岡玄智	副議長 菊地哲夫
------------	-------------

議長・副議長および各委員会体制が決まりました

■監査委員の任命
議員から川村義春氏を監査委員に選任することに同意

監査委員の任命

釧路東部消防組合	
議会議員 菊地哲夫	議会議員 成田誠
議会議員 田浦哲朗	議会議員 成田良雄
議会議員 三上浅雄	議会議員 成田良雄

釧路公立大学事務組合	
議会議員 前田光治	議会議員 前田光治

広報調査特別委員会	
委員長 川村義春	副委員長 田浦哲朗
委員 中山眞一	委員 前田光治
委員 堀金澄恵	委員 三上浅雄

一般質問

田甫 哲朗 議員



問

総合戦略策定の 具体的内容は

答

28年1月には策定を終える

田甫 策定までの全体スケジュールに変更はないか。また、人口ビジョン策定のため委託業者へ提供する基礎データの内容は。

町長 第1回定例会で示したスケジュールに遅れが生じたので、12月の完成予定を28年1月に変更したい。提供データは、国勢調査など公的機関による統計調査結果を考えている。

田甫 出生率・生産年齢人口の推移による財政・地域経済・公共施設の立地などへの影響は。

町長 財政・経済に及ぼす影響はしっかり分析する。公共施設などについては、今後10年間の総合管理計画を28年度中に示す。

田甫 意見集約を実施する産業団体などの業種および方法と時期は。

町長 農林漁業の各組合と商工会、教育・環境関係団体などを予定。6月中に設置する3部門のPT（プロジェクトチーム）ごとに、ヒヤリング・アンケート調査での集約を考えている。

田甫 町民アンケートの内容と実施時期は。

町長 結婚・出産・子育ての環境、地域活性化、町の将来展望の視点から、人口減少に対する意識調査、社会的影響、対応策の提言などで9月実施の予定。

田甫 親元就業者や霧高生の就職を積極的に受け入れる企業への支援など、農林漁業の持続的発展を促す施策が最重要では。



市街地に残る廃屋

町長 10月に素案をまとめ各方面からの意見・提言は計画に取り入れる。

問 「空き家」対策への
取り組みは

答 実態を調査し
具体的対応を

田甫 24年6月議会での答弁は「独自の実態調査をすることから」であった。3年間の取り組み状況は。

町長 実態調査はできていない。苦情・通報があったつど消防と連携して対応している。

田甫 「空き家対策特措法」が施行され自治体の権限が強化された。また、産業団体が空き家を取得改装して職員住宅に活用している例もある。

空き家対策として民間活力を引き出す施策、道の空き家バンクとの連携など行政対応が必要では。

町長 確実に実態調査を行い、12月中にまとめる。そのデータを基に、さまざまな対応・対策を考えて、空き家の減少に取り組む。

一般質問

加藤 弘二 議員



問

由緒ある地名「湯沸」を
生かしては

答

地域と相談し、検討する

加藤 湯沸の正式名は何と発音するのか。小清水町には「涛沸湖」、豊頃町には「十弗」があり、いずれも「とうふつ」と発音しているが。

町長 松浦武四郎が蝦夷地を訪れたときアイヌ語名でこの地をトウブツと書き残している。浜中町史に記載されている。アイヌ語で「沼ノ口」と言う意味である。

現在地元では、「トウブツ」「とうふつ」の両方で言っている。

加藤 現在、山の上全域が湯沸なのに何故霧多布岬、霧多布展望台と言う地名にしているのか。

町長 平成9年の「字名改正」以後は山の上全体が浜中町湯沸〇〇番地になった。それ以前は、浜中町大字霧多布村・大字霧多布村字霧多布・大字霧多布村字湯沸・大字霧多布村字水取場の4種類の地番があった。国土地理院の白地図には湯沸岬(霧多布岬)、海図には湯沸岬灯台と記され、公的には湯沸岬が残っている。

昭和49年から53年にかけて湯沸展望台で「昆布祭り」が行われていた。その時のフリーズで「会場、霧多布岬展望台にて」が使われていた。それが昭和54年から「きりたつぷ岬まつり」となり今日に至っている。観光協会などが中心となって進められてきたイベントであるが、以後36年も経つと霧多布岬、霧多布展望台として知られるようになった。

加藤 湯沸全体が大字霧多布村とくくられていたり湯沸の一部の地番に霧多布があった。しかし、平成9年に字名改正になって全体が浜中町湯沸になったのに、あの湯沸には「湯沸」の看板が一つもない。湯沸上海岸・下海岸の道路標識はあがるが上海岸、下海岸と言う地名はない。少なくとも道道霧多布岬線上に湯沸という地名を表す標識を3本く



現状の案内標識

らい立ててほしいし、元は「湯沸岬」「湯沸展望台」と分かるような表示をすべきだと思うが。

町長 名前の変更については詳しく知っている人は今はいない。しかし今回、湯沸のことをあらゆる角度から調査するに至った。最後に質問されたことを地域の皆さんと相談しながら検討したい。

一般質問

川村 義春 議員



庁舎建設の現状認識は

財源対策を含め 早期着工をめざす

問

答

川村 争点の庁舎問題。選挙戦の結果、構図は変わらず。町民に対する説明責任から、今後の展望をただす。庁舎建設は今も役場裏山への移転新築が最良の策と考えているか。

町長 津波災害から町民の命を守るため、行政は素早く災害対策本部を設置し、実際に活動する職員も早く多く参集して非常配備体制

を敷くことが大前提であり、本町の災害の歴史が作った教訓である。役場裏山への移転は、防災体制の早期設置、施設の安全確保、住民サービスの向上を考えると最も望ましい方策であったと思っている。

川村 町長案に反対する議員が抱えている疑念や危惧に対し、理事者は丁寧な答えていたが、理解されたと感じていないか。

町長 5月に3回開かれた全員協議会に関係職員と出

席し、これまでの経緯と財源、津波に対応する行政機能など疑問や危惧を説明し、議論も交わしたが、十分な理解を得られなかった。

川村 町長提案の有利な財源である緊急防災・減災事業債（70%交付税算入）の活用はどうなるか。

町長 将来的財政負担を軽減するため緊防債の活用をめざしてきたが、現状では極めて困難となる。

川村 町長を始め、職員の努力を無にしないため、特



老朽化が進み、耐震性に不安が!!

別議決（3分の2条項）によらない方策として、現庁舎敷地内建設を視野に入れて「防災機能を備えた庁舎」の建設方針を堅持しつつ、早期に調査設計などの予算提案をすべきと思うが。

町長 築48年の現庁舎は、耐震性の不安から建て替えは必至である。町民の命を守る防災拠点の確保は大きな課題であり、新たな財源対策を含め、もう少し時間をかけて早期着工に向け、積極的に進めていきたい。

問 空き家バンクの開設で昆布干し体験を

答 地方版総合戦略で検討する

川村 避暑地として長期滞在を希望する人に昆布干し体験で滞在費の一部が稼げる方式の「空き家バンク」を開設しては。

町長 空き家の実態把握を経て、バンク登録が可能となる。地方創生に盛り込む施策として、避暑地を活用した昆布干し体験事業を庁内PTの産業振興部門で漁協や漁業者の意見を聞き、政策の立案を進めたい。

学不可以已

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校3年A組

小原 桃香



○揮毫 書道部3年 永坂 玲美さん
○読み方 学は以て已むべからず。
○意味 学問は途中でやめてはならない。

豊かな資源を生かし、生産を高め、
活気のあるまちをつくりましょう。
(町民憲章より)



おいしい牧草の刈り取りに励む

私たちが住んでいる浜中町は自然が豊かで、酪農や漁業が盛んです。また、霧多布湿原には色とりどりの花が咲きます。浜中町の町花であるエゾカンゾウが咲くころには、各地域からの観光客であふれています。しかし、浜中町には宿泊できる施設が少ないと感じます。より多くの人に浜中町の自然を体験してもらうためにも、滞在型体験的ツアーを企画する必要があります。大型宿泊施設を誘致し、湿原の魅力を発信することで、多くの観光客を呼

び、町の活性化を図りたいと考えます。産業に目を移すと酪農や漁業では後継者不足が深刻です。酪農は新規就農をしやすくするために研修制度を整備され、後継者の育成に力を入れています。また、漁業では加工場の新設をはじめ、特産品のブランド化に力を入れています。若い人を増やし、後継者不足を解消するためにも、浜中町全体で若い人が浜中町に残りたいと思う町づくり対策を取り、新しく酪農や漁業などをはじめの人に支援を拡大して、未来の浜中町に

酪農や漁業を残していきたいです。霧多布高校では「浜中学」の授業を通して、浜中町の現状や対策、今後どうしていきたいかを考えています。「浜中学」での意見や若い世代のアイデアを町政に取り上げてほしいと思っています。私たちは、高校から町に向けて意見を発信していきます、多くの町民の皆様に使ってほしいと考えています。信じています。

議会のうごき

3月～6月定例会までの議会活動概況です。

3月	30日	第1回広報調査特別委員会
4月	8日	第2回広報調査特別委員会 霧多布高校入学式（霧多布高校）
	28日	浜中町交通安全運動推進協議会定期総会 (総合文化センター)
5月	7日	第4回全員協議会
	8日	第1回臨時会
	10日	霧多布地区敬老会（総合文化センター）
	12日	第5回全員協議会
	19日	第6回全員協議会 浜中町商工会通常総会（商工会館）
	21日	釧路町村議会議長会5月定例会（弟子屈町）
6月	24日	浜中町消防団総合演習（スポーツ広場）
	25～27日	第39回町村議会議長・副議長研修会（東京都）
	28日	第21回浜中町植樹祭（湯沸山）
	29日	第7回全員協議会
	3日	第8回全員協議会 第2回議会運営委員会
10～11日	第2回定例会	

あとがき

統一地方選は、多くの町民が望んだ選挙戦となり、4月26日の投開票で、新しい議員が誕生。各委員会への配属も決まり、4年間の任期中に行う調査項目の抽出作業を進めています。広報調査特別委員会も新議員3人を含め、6人体制で始動。新たな目線による紙面づくりにチャレンジ。裏表紙の「私のひとこと」に替え、若い世代の声を行政や町民に発信できるよう「学不可以已」と題し、教育委員会・霧多布高等学校長の協力を得て、3年生を対象に寄稿依頼しました。生徒の皆さんは、3年間で浜中を知り、より深く、情報化して広げる「浜中学」を学び、プレゼン能力や情報発信力を備えています。また、公選法の改正による選挙権が20歳から18歳以上になり、28年夏の参院選から政治参加が可能となる世代であることを含めてお願いしたところです。広報委員一同、町民の皆様「読みやすく・解りやすく・親しまれる」を基本に議会広報づくりに努力してまいりますので、率直なご提言を賜りますようお願い致します。

(委員長 川村)